



Lippincott Williams & Wilkins の電子ブックコレクション

角田 亮子

I. はじめに

Ovid 社は、複数の出版社のデータベース、電子ジャーナル、電子ブックを自社のプラットフォームで提供しているため、Aggregator (アグリゲーター) と呼ばれている。電子ブックは、2000 年に Books@Ovid として、Lippincott Williams & Wilkins (以下、LWW) と McGraw-Hill の 14 タイトルからスタートしたが、数カ月後には、Oxford University Press (以下、OUP) が加わり、収録数が 191 タイトルに増えた。現在、Books@Ovid はその収録分野を医学・薬学・看護学からほかの分野にまで拡げ、提携出版社を増やし、3,300 タイトル以上を提供している。ここでは、同じ Wolters Kluwer Health 傘下の LWW の医学・看護学分野の電子ブックコレクションに絞って紹介する。

II. Books@Ovid の契約形態の変遷

約 10 年間 Books@Ovid の販売に携わってきたが、動きだしたのはここ 2、3 年で、それまでは苦戦続きであった。2004 年から、日本医学図書館協会と国立大学図書館協議会向けに、さまざまなタイプの提案をしたが、契約したのはわずか数機関であった。その理由は、電子ジャーナルの急激な普及に比べて、まだ時期尚早だったこともあるが、Ovid 社がデータベースや電子ジャーナルを提供していたために、電子ブックの契約形態を同時アクセス数の制限のある、し

かも購読タイプにしたためであった。図書館のブック担当者にとって、毎年課金が発生する Ovid の電子ブックは受け入れにくい製品だったようだ。

2006 年 Ovid 社が、同時アクセス数の制限のない買い取りタイプの契約形態を追加したので、少し契約件数を伸ばしたが、飛躍的な伸びには至らなかった。Volume Discount、つまり契約するタイトル数によって割引率が定まる方式のため、数千冊の中から買い取るタイトルを決める労力を顧客に強いてしまったようだ。マーケットが反応し始めたのは、Books@Ovid の電子ブックコレクションを発表してからだった。

III. LWW の電子ブックコレクション

2008 年、Ovid 社は、LWW の約 1,000 タイトルを主題分野別と Doody's Enterprise の評価に基づく 2 つのタイプのコレクションにまとめた。多岐にわたる主題分野ごとのコレクションを用意したが、少数の専門病院が契約したのに過ぎなかったのに比べて、LWW Doody's Collection は、まずまずの成果を得た。ヘルスサイエンス系の図書館の蔵書構築をする上で参考になるのは、2 人のライブラリアン (Alfred Brandon と Dorothy Hill) による Brandon/Hill リストだったが、2002 年版を最後にこのサービスは終息した。これに代わるものが、Doody's Enterprises といえる。毎年、ヘルスサイエンスのブックの中から専門分野別に Doody's Core Title (以下、DCT) を選定し、DCT 1. (Good)、DCT 2. (Very Good)、DCT 3. (Excellent) のようにスコアで採点する。そこで、Ovid 社は、DCT と

つのだ りょうこ：(株)ウォルターズ・クルワー・ヘルス・
ジャパン-Ovid Technologies
Ryoko.Tsunoda@wolterskluwer.com

評価されたLWW タイトルを2種類のコレクション、LWW Doody's Essential Collection (以下、Essential)とLWW Doody's Core Collection (以下、Core)にまとめ、コレクションとして提供することにした。Essentialには、DCTの獲得スコアが2.6から3.0の、Coreの中でも特に必須のタイトルが含まれており、2009年版のCoreは198タイトル、Essentialは55タイトルのコレクションとなっている。2008年版のコレクションをすでに買い取った顧客向けには、2009年版を補足するBridge Collectionを用意している。

LWWの電子ブックコレクションの買い取り価格は、収録タイトル数によって通常価格から大幅な値引きが発生する。2009年版のEssentialは40%引き、Coreは65%引きが適用される。Books@Ovidは、出版社によっては、1タイトルからの買い取りができるので、LWW Doody's Collectionに必要なほかの出版社のタイトルを個別に追加することにより、その機関独自のブックコレクションを構築できる。新版がリリースされた場合、旧版を買い取っている顧客には特別価格を提供している。ここで、電子ブックの利点を言及することはしないが、電子ジャーナルと同じようにブックをプリント版から電子版に切り替えた顧客は、新版が出版されるとプリント版に戻ることなく、引き続き電子版で契約する傾向が伺える。

IV. Books@Ovidの利用法

Books@Ovidは、Ovidの二つのプラットフォーム、“OvidSP”と“Nursing@Ovid”および“Clin-eguide”のプラットフォームで利用できる。利用者は、契約したブック・コンテンツを3種類のプラットフォームから選んで利用できる仕組みになっている。ここでは一番利用されているOvidSPを例にBooks@Ovidの利用方法を説明する。

1. ブラウジング

Ovid社は、図書館がWebsite上で、Book

A-Zを案内できるように、タイトルごとのショートカットURLを用意している。また、OPACにリンクを設定するためのMARCレコードをダウンロードできるようにしている。Books@Ovidのブラウジング画面では、書名のアルファベット順と主題分野別に、ブックを案内している(図1)。目的のブックを開くと、左列に目次やIndex A-Zのキーワードが表示され、クリックすると、目的の箇所にとどり着く。

2. 検索

電子ブックの利点の一つに、検索機能が挙げられる。Books@Ovidは非常に豊富な検索フィールドが用意されている。Pagination(ページ)からの検索が可能なので、参考文献のブックをBooks@Ovidで確認する場合、Multi-Field Search(マルチフィールド検索)でブックのタイトルとページのAND演算を行うと簡単に探し出せる。

Ovid社は、2007年10月に、“Ovid We Gateway”に代わる新しい検索プラットフォーム“OvidSP Version 1.0”をリリースした。そこで登場したのが、“Basic Search”(基本検索)のNatural Language Processing(自然言語処理)(以下、NLP)の検索手法である。NLPは、文章形式での質問に対応している。完全な文章にする必要はなく、単語の羅列でもかまわない。Basic Searchでは、利用者が入力した文章の中から、検索語に取り上げる語・句を抽出する。“Included Related Terms”(関連する語句を含める)をクリックすると、語彙集(レキシコン)と照らし合わせ、語尾変化、同義語などの関連する語を含め、検索する。Basic Searchでは、一冊の本の章をさらに細分化したパッセージ(部分)が検索単位となる。選び出された語・句のパッセージ中の出現回数、出現頻度、重要度、近接性、語彙レベルの5つのファクターを解析し、関連性の高い順に、星印(★)でランキング表示される。検索に取り上げられた語・句は、“Search Information”(検索情報)で確認することができる。



図1 ブラウジング画面

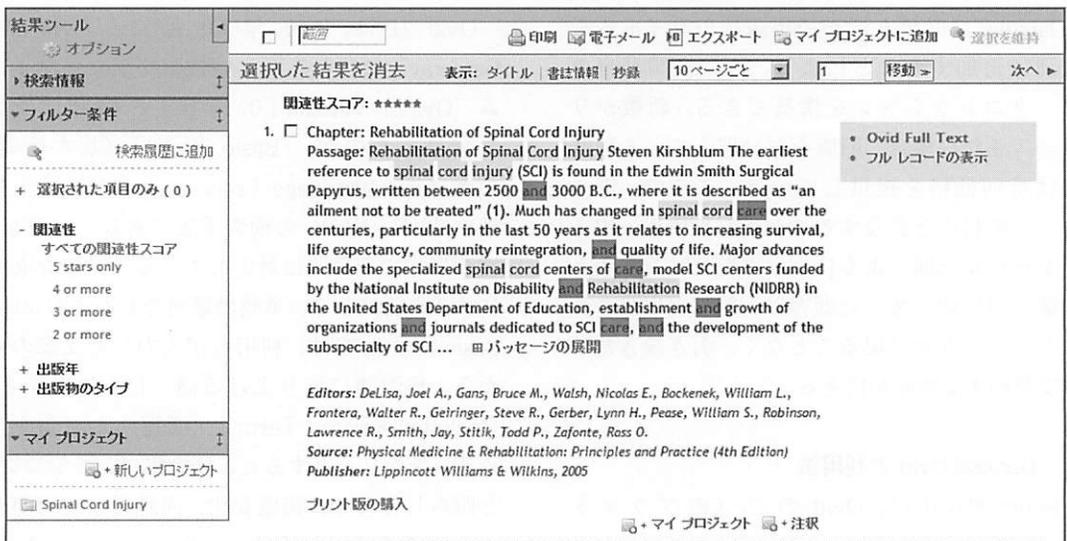


図2 検索結果画面

例えば、“脊椎損傷後のリハビリテーション”がどのパッケージに書かれているかを検索する場合、“rehabilitation after spinal cord injury”と入力すると、“after”を除いて、rehabilitationとspinal cord injuryの語・句が抽出され、さらに関連する語句を含め、解析が行われ、関連性

の高い順に星印で結果が表示される。図2は、2009 Doody's Essential Collectionでの検索結果で、3つ星は、どちらかの概念、rehabilitation(リハビリテーション)かspinal cord injury(脊椎損傷)が欠けているので、5つ星4つ星の内容をまず確認すればよいということになる。利

用者は、瞬時に数百冊の本の中から、質問の回答がどの本のどの章のどのパッセージ（部分）に書かれているかを知り、内容を確認する。これは、Books@Ovid をブックの集合というよりも、一つのフルテキスト・データベースと考え、より短時間に、目的の箇所にたどり着かせる OvidSP の設計思想からきている。

3. 印刷、保存、E-mail 送信

ブラウジングや検索からブックを読む段階に進むわけだが、プリント版に慣れた人にとっては、PC 画面で読むのは抵抗を感じるだろう。ただ、プリント版では成し得ない機能が電子ブックには豊富に備えられている。音声や動画をサポートできるので、心臓の音や手術などを耳や目で確認しながらテキストを読むことができる。また、さまざまなリンクが設定されているので、参考文献の内容をフルテキストや抄録ですぐに確認することができる。しかしながら、まだプリント版と同じように紙媒体で読みたい利用者が多いのも確かである。その場合、保存と Email 送信は章単位だが、印刷はパッセージ単位でも行える。

V. おわりに

電子ブックは、所有感が味わえないという声がある。通常、機関購読なので確かに共有している形だが、Books@Ovid は My Account（個人アカウント）にログインすることにより、個人向けに自由にカスタマイズすることができる。図書館のプリント版のブックに書き込みをすることは禁じられているが、Annotation（注釈機能）により、ブック単位あるいはパッセージ単位で書き込みができる。2010年4月にリリースされたバージョン 3.0 で、パーソナライゼーションの機能が強化され、あたかも「自分のブック」と感じることができるようになった。新機能である My Project によって、常に参照する章や画像を整理整頓し、「しおり」のように利用することができる（図 3）。

読みたい電子ブックをすべて Books@Ovid で提供できるとは限らない。Ovid 社は、2008年8月、“OvidSP Version 2.0”で、“Ovid Universal Search”をリリースした。Ovid Universal Search は、別途契約しなければならないが、ほかのプラットフォーム上の電子ブックやそのほかのコ

The screenshot displays the OvidSP My Project interface. At the top, it shows the Wolters Kluwer Health logo and the user's login information: Heisei University of Taro Yamada. The main navigation bar includes '検索', 'ジャーナル', 'ブック', and 'マイワークスペース'. Below this, there are options for 'マイプロジェクト', '保存検索式とアラート', 'マイ電子目次', and 'ツールバーのインストール'. A search bar is present with a dropdown menu set to 'すべてのプロジェクト'. The main content area is titled 'Spinal Cord Injury (編集 | 削除)' and shows '0 フォルダー 1 アイテム'. A table lists the items:

名前	アイテム	修正日
Spinal Cord Injury	1	2010-May-16

Below the table, there are options for 'アーカイブされたプロジェクト' and a 'すべて選択' button. Action buttons for '印刷', '電子メール', 'エクスポート', and '削除' are visible. A '並べ替え条件' dropdown is set to '10 ページごと'. The main text preview shows a chapter titled '1. 章: Rehabilitation of Spinal Cord Injury' by Kirshblum, Steven. The passage discusses the earliest reference to spinal cord injury (SCI) found in the Edwin Smith Surgical Papyrus, written between 2500 and 3000 B.C., and notes that much has changed in spinal cord care over the centuries, particularly in the last 50 years.

図 3 My Project 画面

ンテンツも OvidSP 上から横断検索し、取得した結果を OvidSP 内で管理・整理することができる。また、“Ovid Universal Search”の補助機能として、“Ovid Toolbar”が追加された。OvidSP 外部のサイトで見つけたブック・コンテンツも、Ovid Toolbar により、My Project に保存し、整理することができる。つまり、利用者は検索したいコンテンツがどこにあるかを気にせずに、単一の OvidSP プラットフォームで一元管理できる。

Ovid 社は、非英語圏のインターフェイスを開発してきた。今まで、フランス語、ドイツ語、スペイン語さらに中国語のインターフェイスをリリースした。2010年5月、ついに日本語イン

ターフェイスが登場したので、今まで気がつかなかった OvidSP の機能を使いこなすことができるようになることを期待している。

参考文献

- 1) Shedlock J, Walton LJ: Developing a virtual community for health sciences library book selection: Doody's Core Titles. J Med Libr Assoc. 2006; 94(1):61-6.
- 2) Karen F: Doody's Core Titles in the Health Sciences (DCT): J Med Libr Assoc. 2005; 93(3):409.
- 3) 設楽真理子: 新しい検索 & 探索プラットフォーム “OvidSP”. オンライン検索. 2009; 30(1/2): 21-31.
- 4) Books@Ovid. [2010. 2. 25]
http://www.ovid.jp/site/j_05.htm